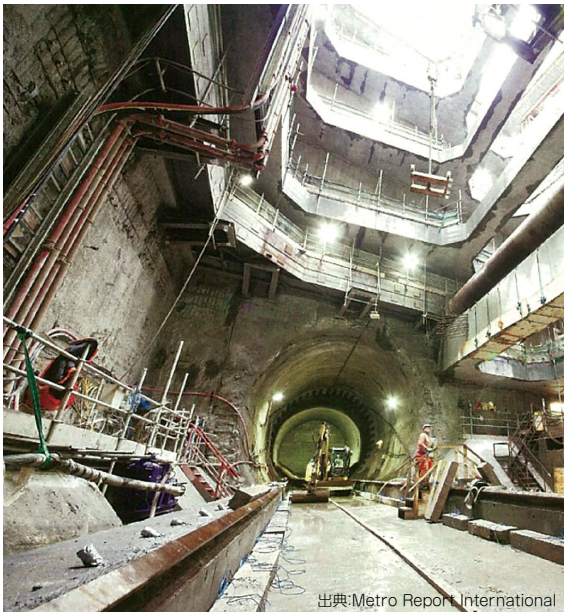


## 輸送

### ロンドンの地下を横断するクロスレール・プロジェクト

原題: Crossrail passes halfway mark  
誌名: MRI: Metro Report International Vol.28 No.2 (2014-6) p32-35

ロンドン市街地下をトンネル総延長42kmで横断するクロスレール・プロジェクトは、2008年12月に建設が始まり、2019年12月にサービス開始の予定である。路線は25kV50Hzで電化され、CBTC(無線式列車制御システム)が備えられており、車両はボンバルディア社の9両編成の電車が予定されている。このプロジェクトではヒースロー空港への利便性向上も大きな目的のひとつである。



出典: Metro Report International

クロスレール路線の地下トンネル工事現場

## 車両

### 排ガス規制に対応するためのリアルタイムモニターの活用

原題: Trains, strains, and auto-surveillance  
誌名: RGI: Railway Gazette International Vol.170 No.6 (2014-6) p42

フロリダ州にあるTri-Rail社向けのディーゼル機関車を、2015年1月施行予定の第4次排ガス規制(Tier 4)に適合させるため、機関車が路線上のどこにいても、リアルタイムで排ガスフィルターの劣化を検知して送信できる、GPS付きのモニター装置を開発した。これにより、同社は適切な交換手配をすることができる。



出典: Railway Gazette International

BL 36PH型ディーゼル機関車

## 電力

### 国境をまたぐ路線の電化方式の変更

原題: Cross-border conversion poses a complex challenge  
誌名: RGI: Railway Gazette International Vol.170 No.6 (2014-6) p30-36

フランス～スイス間の長さ33kmの幹線区間において、DC1.5kVからAC25kV50Hzに切り替える工事が行われる。この工事はジュネーブ地区の鉄道インフラ近代化プロジェクトの一部であり、長さ230kmの区間でRER(地域急行鉄道網)路線の運転が2018年から2019年にかけて開始される予定である。DCからACへの変換は両国鉄道網の標準化を推進する。



出典: Railway Gazette International

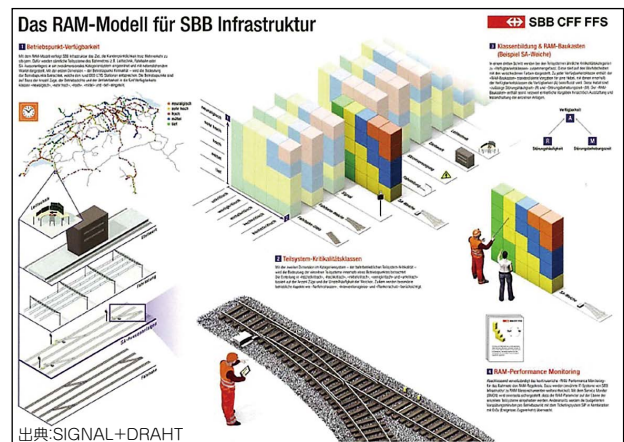
架空剛体架線の設置

## 信号通信

### システムティックなRAM管理を全路線へ適用

原題: RAM@Bahnnetz - differenzierte Verfügbarkeit im gesamten Bahnnetz  
誌名: SD: SIGNAL+DRAHT Vol.106 No.6 2014-6 p13-18

スイス連邦鉄道は新製品の開発や入札に際して、EN50126に準拠したRAM(Reliability, Availability, Maintainability)標準を適用している。しかし、同鉄道はこの手法が限界にきたことを認識し、システムティックなRAM管理を全路線に適用するため、新しいRAM@Bahnnetzを開発した。これは運転リスクによってRAM指標の適用を区別するものである。



出典: SIGNAL+DRAHT

RAM@Bahnnetzの概念



WRT(海外鉄道技術情報)は海外主要鉄道誌の記事抄録を含め、海外の最新の鉄道技術情報をタイムリーに紹介する季刊誌です。ここに紹介した記事はその一部です。  
⇒新刊案内、バックナンバーは総研HP(www.rtri.or.jp)をご覧ください。  
⇒問合せ(研友社) TEL: 042-572-7157 HP: www.kenf.jp